**パラグアイ内政・外交報告（２０１４年７月分）**

**概要**

**（１）内政**

●１日，ブラス・リャノ上院議長（兼議会議長）及びウゴ・ベラスケス下院議長の下，新議会が発足した。

●同日，カルテス大統領は議会における演説で年次報告を行い，周辺国との外交関係正常化や各種経済法案の成立など，就任後約１０ヶ月間の政権運営の成果を発表した。

●４日，４月上旬に発生したアルラン・フィック少年の誘拐事件に関し，カルテス大統領はデ・バルガス内相と協議を行い，関連報告書の提出及び更なる対応の強化を命じた。

●１５日，デ・バルガス内相は，インテリジェンス当局の情報として，アルラン・フィック少年が未だに生存している旨述べた。

**（２）外交**

●１６日，カルテス大統領は，ＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席のためブラジリアを訪問し，同首脳会合において，パラグアイ政府が推し進める政策の３つの柱，貧困削減，社会的包摂を伴う経済発展，国際社会への参加を内容とするステートメントを行った。

●１８日，カルテス大統領は，当国を公式訪問したムヒカ・ウルグアイ大統領との首脳会談を行うとともに，両国首脳間共同声明を発出した。

●２９日，カルテス大統領はベネズエラで開催された第４６回メルコスール首脳会合に出席し，同首脳会合においてパラグアイの国際社会への復帰を強調する内容のステートメントを行った。

●同日，カルテス大統領は，同会合後，マドゥーロ・ベネズエラ大統領との首脳会談及び共同記者会見を行った。

**１　内政**

**（１）新議会の発足**

●１日，ブラス・リャノ上院議長（兼議会議長）及びウゴ・ベラスケス下院議長の下，新議会が発足した（上院４５議席，下院８０議席。会期は２０１４年７月１日から２０１５年６月３０日まで）。

**（２）カルテス大統領による年次報告発表**

●１日，カルテス大統領は議会における演説で年次報告を行い，就任後約１０ヶ月間の政権運営の成果を発表した。なお，壇上には三権の長（カルテス大統領，リャノ上院議長，ウゴ･ベラスケス下院議長，トーレス最高裁判所長官）及びアファラ副大統領が並び，上下両院議員，外交団，国際機関関係者などが出席した。同年次報告の概要は以下のとおり。

＜外交関係＞

●パラグアイと他国との外交関係は良好な状態にある。バイにおいてもマルチにおいても，パラグアイは国際社会に完全に復帰した。特に，二国間関係については，経済・貿易関係を優先しつつ，域内各国との関係正常化を行った。また，立法府や産業界等との協働の下，以下の６点を達成した。

1. 駐アルゼンチン大使，駐ブラジル大使，駐ベネズエラ大使，駐エクアドル大使，駐ウルグアイ大使，OAS代表部大使，ALADI代表部大使を任命し，域内及び国際場裡におけるパラグアイの位置づけを改善した。
2. アルゼンチン，チリ，ブラジル，ウルグアイ及びボリビアを国賓として訪問し，バチカン及び日本を公式に訪問するとともに，訪問国において，パラグアイへの投資誘致を行った。アルゼンチン，ブラジル，ウルグアイ，ベネズエラ，ペルー及びコロンビアとの外相レベルの往来を実現するとともに，域内統合を促進し，政治・経済レベルの対話メカニズムを再活性化させた。
3. アルゼンチン及びブラジルとの戦略的な対話及び交渉を実施した。アルゼンチンとの間では，河川航行，通信，新たな橋梁建設において，合意に向け前進し，ブラジルとの間では，パラナ川における第二の国際橋建設にかかる入札を完了するとともに，関係閣僚間の往来を通じ，投資，貿易及びインフラ分野における関心を共有した。
4. ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の議会承認を促進し，メルコスールの制度的発展に寄与した。パラグアイは，活力を持って，メルコスールに再度参加するが，右はパラグアイにおいて，合法的なプロセスを通じ，国民の参加を得て，明白な大統領選の結果が出たことを隣国が認めたことによるものである。なお，パラグアイにおいては，ウスアイア第２議定書（メルコスールの民主主義に関する議定書）は発効していない。
5. 大統領または外相レベルで，国連総会を始めとする国際機関の会合に積極的に参加し，パラグアイの国際場裡におけるプレゼンスを強化した。
6. その他，国際協力を得るためのフォローアップは外交の重要な側面の１つであり，EU及びアジア諸国等との対話の深化を推し進めた。また，メキシコとの経済・貿易関係を深化させるとともに，太平洋同盟諸国との関係の深化を図った。右は，太平洋同盟のアジア志向がパラグアイの生産，貿易及び投資にとって重要であることに起因するものである。

＜治安対策＞

●国政における治安の維持の重要性に鑑み,市民により近い警察を作り上げることを目標に掲げ,国家治安戦略計画を推進している。同計画を通じ,国家警察の技術面での向上及び人材育成を強化している。

●麻薬問題については,コカイン精製工場の摘発，マリファナ，コカイン，クラックの取り締まり及び犯人の検挙に力を入れ，実績を残した。

●密輸については,２０１３年８月から２０１４年６月までに,国家警察が７，６０６名を令状により逮捕し,１５，１５２名を現行犯逮捕するという歴史的な記録を達成した。

●北部の治安問題（EPP（パラグアイ人民軍）を巡る問題）については，国家警察と国軍の共同作戦を可能とする客年８月２４日付け大統領令第１０３号を発出し，その結果，現在までに７名のEPPメンバーを逮捕した。

＜経済政策＞

●財政責任法の導入を達成し，国家支出の増加のリズムを持続可能なものとすることに努めている。既に２０１３年第４四半期に１５％，２０１４年第１四半期に４％の支出削減を達成した。２０１３年の財政赤字はGDP比１，９％であったが，２０１４年の財政赤字は減少する予定である。他方で，農牧畜業法人税（IRAGRO）の導入等及び収税強化により，２０１４年第１四半期の税収は昨年の同時期比で１７％増加した。

●２０１３年７月，スタンダード＆プアーズ(S&P)社がパラグアイの長期ソブリン債の格付けをBB-からBB+に引き上げ，当国経済の先行きにつき,より安定的との見方を示し，本年１月，フィッチ社はパラグアイ格付けを「安定的」から「ポジティブ」に変更し，また，ムーディーズ社も格付けを引き上げた。

●現在，インフラ整備を進めるために，７５０百万ドルの国債発行に向け，政府として取り組んでいる。

●２０１３年８月以降，１４８件の公共事業を再開し，７，０００の雇用を創出するとともに，３件の入札において４２百万ドルの支出削減を達成した。

●官民連携法を導入し，中長期的な投資の促進が見込まれている。同法及び関連規則を通じ，財政のバランスを取りつつ，社会的包摂を伴う発展の達成に向け，取り組んでいる。

＜社会政策＞

●パラグアイにおける貧困率は，２０１１年１２月の３２，４％から２０１３年１２月の２３，８％に減少し，同様に極貧率は，１８％から１０％に減少した。

●テコポラ計画（貧困家庭への現金支給を含む援助計画）による８万世帯への支援を実施し，今後，対象を１０万世帯に拡大する。

●２０１３年８月以降，デング熱患者が１０％減少した。また，現在，７４５箇所の家族保健ユニット（計３，０００名の医師）において，約２３０万人が診察を受けており，同ユニットのうち，３９％において，整備の改善や職員の研修を行っている。

●乳幼児を対象とした麻疹及び風疹のワクチン接種キャンペーンを実施し，５０万人へのワクチン接種を行い，本年７月１５日には，麻疹及び風疹の正常国に認定される見込みである。

●教育分野においては，文房具等の教育キットを１６３万人の生徒に配付し，３万人の低所得世帯の児童に昼食を,４万６千人に軽食を給食として提供している。

**（３）EPP（パラグアイ人民軍）による誘拐事件**

●４日，４月上旬にコンセプシオン県に所在するブラジル人家族が経営する農場に EPPメンバー約１５人が侵入し，同農場管理者の長男アルラン・フィック（１６歳）を人質に取り現場から逃走した事件に関し，カルテス大統領はデ・バルガス内相との協議を行い，関連する報告書の提出及び更なる対応の強化を命じた。

●１５日，デ・バルガス内相は，インテリジェンス当局の情報として，アルラン・フィック少年が未だに生存している旨述べた。また，事件を担当するフェデリコ検事も同様に同少年が生きている旨述べた。

**２　外交**

**（１）カルテス大統領のＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席等**

＜ＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席＞

●１６日，カルテス大統領は，ＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席のためブラジリアを訪問し，同日，同首脳会合においてステートメントを行ったところ，概要以下のとおり。

●パラグアイ政府は，６月上旬に「社会的包摂を伴う発展」を主題とした第４４回米州機構（OAS）総会を開催したが，右は，今次会合のテーマ「包括的成長：持続可能な解決策」と一致するものである。

●パラグアイ政府の優先課題は貧困削減であり，可能な限り短期間で，社会的包摂を伴う発展を実現させるためのロードマップをパラグアイ政府は有している。パラグアイにとって，今こそが，教育，医療，雇用，住居へのアクセスを確保し，すべての国民の生活の質を向上させるための平等な機会を提供しつつ，社会的正義の実現に向け，各種変革を行う時期である。

●パラグアイ政府が推し進める政策の３つの柱は，貧困削減，社会的包摂を伴う経済発展，国際社会への参加である。パラグアイは，特に近年，貧困削減の分野で大きな成果を挙げており，更なる貧困削減に向けて，極貧層削減国家プログラム「Sembrando Oportunidades」等に取り組んでいる。

**（２）ムヒカ大統領の当国訪問**

●１８日，カルテス大統領は，当国を公式訪問したムヒカ・ウルグアイ大統領との首脳会談を行い，両国首脳は，長年に亘り培われてきた両国友好・協力関係へのコミットメントを再確認した。また，両国首脳は持続的な発展と統合のためのアクションプラン策定にかかるハイレベルグループ創設のための覚書に署名するとともに，両国首脳間共同声明を発出した。同共同声明の主要な点は以下のとおり。

－既存の二国間各種委員会の再活性化を歓迎するとともに，両国外務省に対し，各種　　　委員会の会合の開催により，二国間アジェンダを強化するよう指示。

　－両国間の貿易条件及び輸出品の多角化に向けた戦略的な同盟の重要性を強調するとともに，マリアノ・ロケ・アロンソ市（パラグアイ）で開催されている農牧，工業，貿易等にかかるエクスポにおけるウルグアイ・パビリオンの出展を歓迎。

　－内陸開発途上国であるパラグアイが抱える問題の克服に向けた各種メカニズムの重要性を強調するとともに，パラグアイからの輸出品のモンテビデオ港における積み換え等の作業効率化に向けた対策を講じるよう，両国関係当局に指示。

　－ウルグアイ・ロチャにおける深水港建設計画を通じたパラグアイに対する便宜の検　　　　討のためのハイレベル委員会の創設にかかる覚書への署名を歓迎。

　－河川の自由航行の原則を尊重し，域内のエネルギー統合の促進に向けた関心につき　　　一致するとともに，URUPABOL（仮称：ウルグアイ，パラグアイ，ボリビアによる地　　　域連合体）関連会合の早期招集につき一致。

　－天然資源に対する主権行使の促進にかかる取組に対する関心を表明するとともに，　　　両国関係当局に対し，パラグアイ産電力のウルグアイへの売却にかかる技術面及び　　　貿易面の条件を定めるよう指示。

　－メルコスール，UNASUR,CELAC等の地域統合プロセスの維持・深化の重要性を強調。

**（３）カルテス大統領のベネズエラ訪問**

●２９日，第４６回メルコスール首脳会合出席のためにベネズエラを訪問したカルテス大統領は，同会合後，マドゥーロ・ベネズエラ大統領との首脳会談及び共同記者会見を行った。

●同記者会見において，マドゥーロ大統領は，同会談において，両国の発展と繁栄に向けた共通の課題について協議した旨述べるとともに，両国経済関係の強化に向け，早期に経済，通商，物理的統合等に関する協議を開催することにつき意見交換を行った旨述べた。

●これに対し，カルテス大統領は，ベネズエラのメルコスール正式加盟がパラグアイ議会の承認を得たものである旨言及した上で，ベネズエラ政府のパラグアイに対する敬意を高く評価した。また，同大統領は，両国首脳のコミットメントは，国民のために働き，歴史的な結びつきの強い両国関係を更に緊密なものにし，アイデアを実行に移すことである旨述べた。

●また，カルテス大統領は，他の記者会見において，パラグアイ石油公社（Petropar）のベネズエラ国有石油会社（PDVSA）に対する債務問題に関し，今後，作業部会が設置される旨述べるとともに，マドゥーロ大統領が問題解決に向けた意志を表明した旨述べた。更に，今後，パラグアイは，ベネズエラが必要とする穀物，牛乳等の食糧を提供することとなる旨述べた。

**（４）カルテス大統領の第４６回メルコスール首脳会合出席**

●２９日，カルテス大統領はベネズエラで開催された第４６回メルコスール首脳会合に出席し，同首脳会合においてステートメントを行った。

●カルテス大統領は，同ステートメントの中で，大統領就任以降，パラグアイがメルコスールに問題なく復帰できるよう，可能な限りの努力を重ねてきた旨述べるとともに，カルテス政権が，国民と国の将来のために，メルコスールに完全な形で復帰するという姿勢を貫いてきたことを強調した。

●また，同大統領は，今次首脳会合への参加は，地域統合プロセスを強化するという明確な意図によるものであるとした上で，パラグアイ政府が，議会に働きかけた結果，憲法上の手続きを経て，議会において，ベネズエラのメルコスール正式加盟が承認された旨述べた。

●なお，今次首脳会合において，メルコスール加盟各国がイスラエルによるガザ自治区への攻撃に対する非難決議の発出を求めたのに対し，パラグアイは，対話による解決，国連の枠組みにおけるエジプト主導の交渉を支持し，イスラエルを一方的に非難する決議に反対するとし，同決議への署名を拒否した。そのため，同決議は，パラグアイ以外の加盟国による署名をもって発出された。

**（５）台湾との二国間関係**

●１３日付当地abc紙は，リウ当地台湾大使へのインタビュー記事を掲載し，パラグアイと台湾の外交関係が５７周年を迎え，政治，経済及び文化等の分野で関係を強化してきたとした上で，台湾の対パラグアイ経済協力，台湾の中国との関係等について報じているところ，概要以下の通り。

●カルテス政権は，５カ年で４，５００件の民生住宅を建設する（台湾政府の無償供与による）プロジェクトを承認した。同プロジェクトにつき，台湾はカルテス政権との間で７１百万ドルを無償供与する覚書を取り交わした。

●台湾は様々な分野での人材育成・能力向上への支援に注力しており，右は，パラグアイへの技術ミッションの派遣及び台湾への留学生の受け入れの２つの方法で実施されている。まず，技術ミッションは，小農の生計を向上させるため，花卉栽培及び淡水魚の養殖等における支援を行ってきている。他方で，パラグアイの官民両セクターから社会人の留学生を受け入れている。現在１１０名のパラグアイ人奨学生が台湾の大学における５カ年のコースを受けている。

●台中関係は大幅に改善している。台湾は，WTO加盟国で有り，WTO加盟国間では自由な貿易が認められているところ，台湾は，パラグアイの対中経済関係の障害とはならない。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●４日，イヴァン・ラマーリョ・メルコスール上級代表（ｺﾞﾝｻﾚｽ外務副大臣との会談）

●１８日，ムヒカ・ウルグアイ大統領（カルテス大統領との会談等）

**（２）往訪**

●２日～４日，ロイサガ外相，米国訪問（ＯＡＳ作業部会出席）

●１４日～１６日，ロハス蔵相，ウルグアイ訪問（アンデス開発公社関係会合首席）

●１６日，カルテス大統領，ブラジル訪問（ＢＲＩＣＳ・ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席）

●２８～３０日，カルテス大統領等，ベネズエラ訪問（第４６回ﾒﾙｺｽｰﾙ首脳会合出席）

(了)